

HPVワクチン積極的接種勧奨再開 にブレーキとなっている要因 —裁判と報道—

日本産婦人科医会
副会長 石渡勇

2019年7月10日 日本記者クラブ

1

HPVワクチンのリスクとベネフィット

若い女性・子育て世代の女性が子宮頸がんで「子宮を失う」、「命を失う」ことは深刻な社会問題。副反応リスクvsベネフィット 命、妊孕性、女性と家族のQOL、世界の国々はリスクを踏まえ、社会全体のベネフィットを選択している。

年間死亡数: 3000人弱、
子宮頸がん治療: 約10,000人 不自由な生活
円錐切除術: 13,000人、妊孕性低下、流早産多い
妊娠合併癌: 年間225件、子宮頸がん(0期含む
162件、72%)

HPVワクチン2価、4価で、年間

- 救える命: 2,500人
- がんを免れる: 7,000人
- 円錐切除術を免れる: 6,300人

国立がん研究センター
がん死亡数2017年
頸がん 2795
体がん 2526
子宮がん6611
がん罹患数2014年
頸がん10490
体がん13889
子宮がん24944

頸がん死亡数3472
頸がん罹患数10733
ベネフィット

●CRPS・慢性疼痛は針刺しと
関係? 1.5件/10万接種
思春期女性に多い失神
わが国特有の副反応ではない

リスク

9価HPVワクチン接種とがん検診で
子宮頸がんは撲滅

■ 公費助成有
 ■ パイロットプログラム
 ■ 男性も公費助成
 ■ 来年から男性も公費助成

- ・導入国数:135か国、
- ・公費負担国数:101か国
- ・男性への公費負担国数:30か国

[illegible]

WHO
HPV公費助成国 105ヶ国
男女公費接種 16ヶ国

週刊日本医事新報
2018/11/24
No4935 P8-P9
シャロン・ハンリー
北海道大学大学院医学研究員
生殖・発達医学分野産婦人科教室

青字：男性の公費助成がある国、赤字：2019年から男性の公費助成がある国

米国における部位別のHPV関連悪性腫瘍のHPV寄与率		Attributable to any HPV type	
Cancer	Average annual no.	No. (%)	
Cervical	11,771	10,700 (91%)	91%
Vaginal	802	600 (75%)	75%
Vulvar	3,554	2,400 (68%)	68%
Penile	1,168	700 (60%)	60%
All anal cancers	5,010	4,600 (92%)	92%
Female	3,260	3,000 (92%)	92%
Male	1,750	1,600 (91%)	91%
All rectal cancers	750	700 (93%)	93%
Female	513	500 (97%)	97%
Male	237	200 (84%)	84%
All oropharyngeal cancers	15,738	11,000 (70%)	70%
Female	3,100	2,000 (65%)	65%
Male	12,638	9,100 (72%)	72%
Total	38,793	30,700 (79%)	79%

男性にもHPVワクチン接種

WHO:子宮頸がん撲滅

WHO 2018年:「子宮頸がん撲滅へ世界協調的な行動を！」
子宮頸がん撲滅≡罹患率4未満

Kate T. Simms Cancer Council Lancet Oncol 2019.2.19

予防介入(ワクチン・検診)拡大が子宮頸がん罹患率に及ぼす影響を
数理的解析

人間開発指数(HDI:保健、教育、所得)を用い

＜子宮頸がん罹患率6に下げる予測＞

1) very high HDI国家 2045～49年:米国、フィンランド、英国、カナダ
など

2) high HDI国家 2055～59年:メキシコ、中国、ブラジル

3) medium HDI国家 2065～69年:インド、ベトナム、フィリピン

4) low HDI国家 2085～89年:エチオピア、ハイチ、ニューギニア

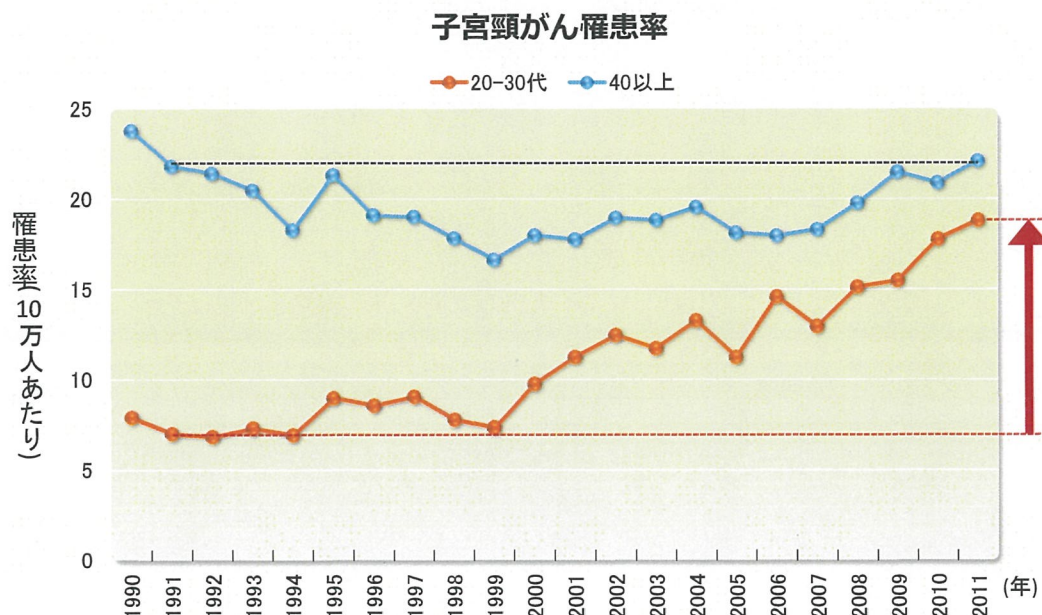
＜子宮頸がん罹患率4に下がる予測＞

1) very high HDI国家 2055～59年:米国、フィンランド、英国、カナダ
など

5

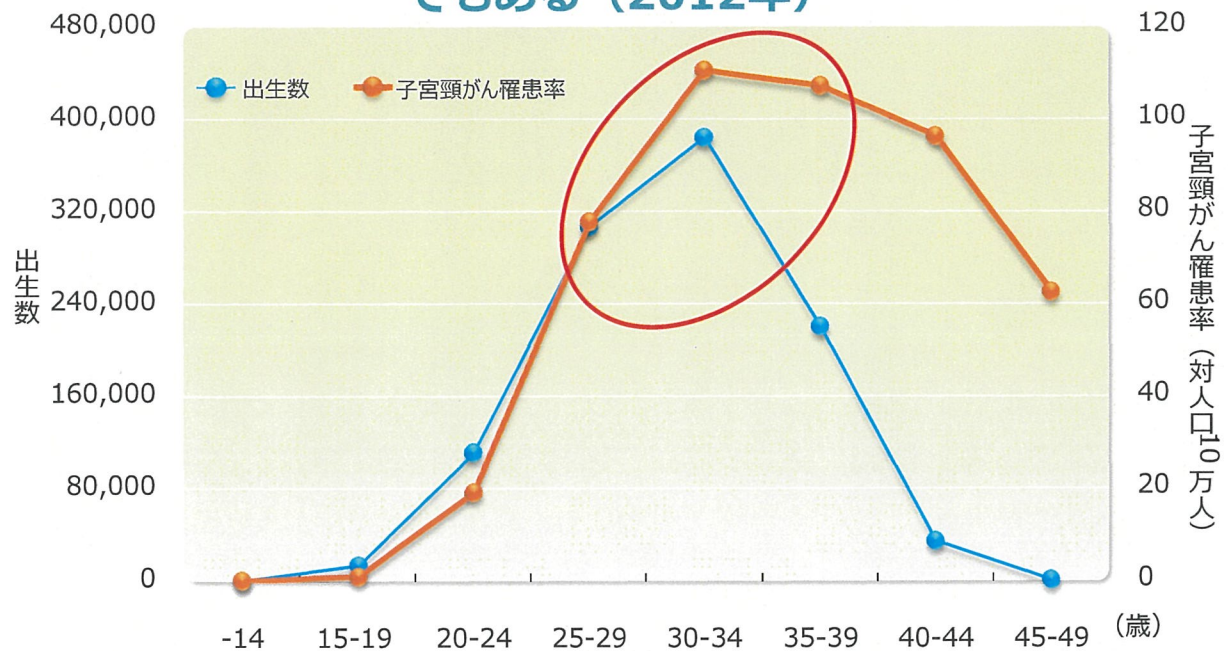
日本における20～30歳代の子宮頸がんの罹患率

近年、若い世代で子宮頸がん(浸潤がん)の罹患率が増加傾向



子宮頸がんの罹患年齢と出産年齢（日本）

出産年齢のピークは子宮頸がん（上皮内がん含む）罹患のピークでもある（2012年）



厚生労働省 平成24年度人口動態母の年齢別にみた年次別出生数・百分率および出生率（女性人口千対）
独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター 2012

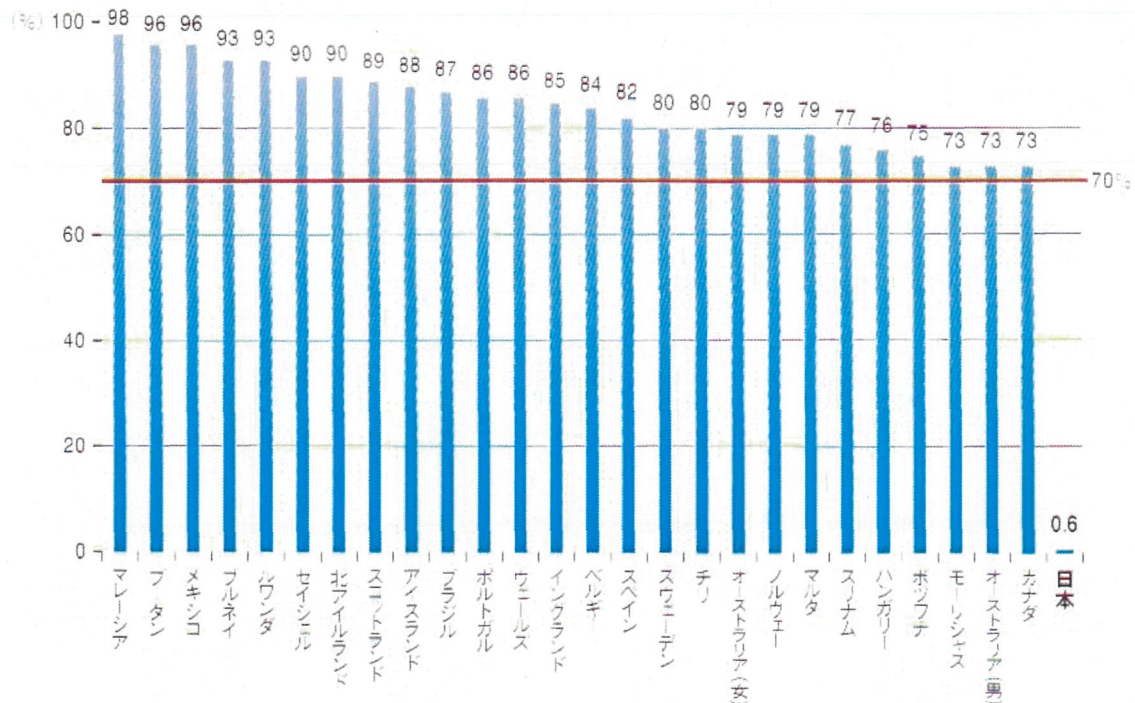


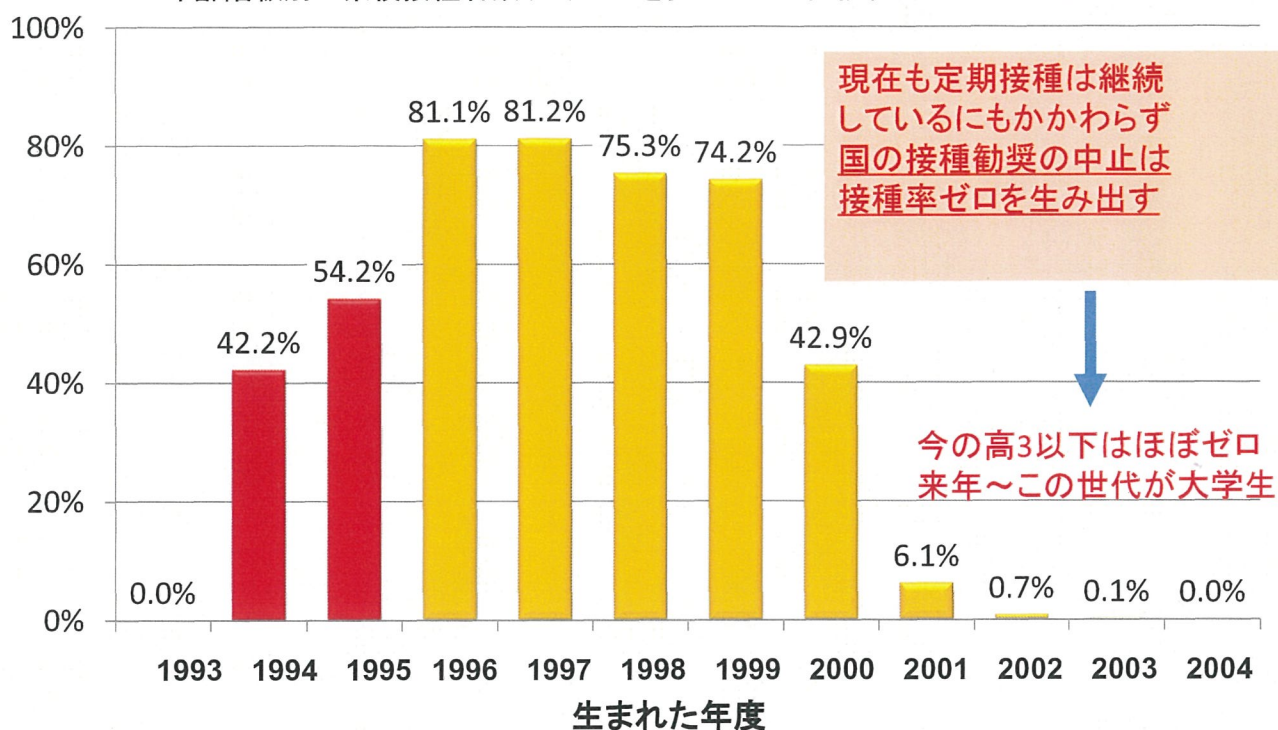
図2 HPVワクチン接種率が70%以上の国々と日本

《文献1. 2. 10より作成》

週刊日本医事新報
2018/11/24
No4935 P8-P9
シャロン・ハンリー
北海道大学大学院医学研究員
生殖・発達医学分野産婦人科教室

日本のHPVワクチン接種率(女子)

年齢階級別の累積接種者数(ワクチンを少なくとも1回接種したことがある者の人数)を推計



第23回 副反応検討部会(2016年12月26日開催)
祖父江班 全国疫学調査(子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究) より一部改編

日本の現状

- 子宮頸がん罹患率が増加
- 子宮頸がん検診受診率の40%横ばい
- HPVワクチンの接種勧奨なし、接種率0.3%
- 裁判の長期化(世界初の国賠訴訟)
- 名誉棄損裁判の行方

HPVワクチン訴訟-1

- 2009年12月： ワクチン使用開始
- 2013年3月： 全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会を結成
- 2013年4月： HPVワクチンの定期接種化 接種率は72%
- HPVワクチン接種反対派、マスコミ等によるネガティブメディアキャンペーン

下肢の不随意運動(震え)をする少女のセンセーショナルな映像が繰り返しテレビで放送。科学に基づいた因果関係がなかったが、有効性と子宮頸がん予防のためのHPVワクチンの重要性についての適切な情報がない一方的なうわさによってHPVワクチンの負の印象を国民や医師までも持ってしまった。

- 2013年6月14日： 国による接種勧奨一時差控え 現在に至る
- 国は定期接種でありながら実施主体である市町村は接種を勧めず(通知せず)。 この時点では、裁判はおきていない

接種率が5%以下に著減 2018年接種率1% 2019年 0.3%

- 2015年3月31日： 全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が全面解決要求書を提出

11

2013年：HPV有害事象crisis-メディアの嵐？ HPVワクチン接種反対派による有害事象のネガティブメディアキャンペーン、(「被害者」グループ)

3月

4月

5月

6月

HPVワクチン接種に反対する報道の頻度



12

(*) Vaccine Adverse Reactions Review Committee

HPVワクチンをめぐる2つの訴訟ー2 (2016年、平成28年)

本庶佑「科学では
“ある”ことを証明で
きないことはない」

○3月16日、TBS「ニュース23」と厚労省の成果発表会で

厚労科研研究班(池田班:信州大学池田修一副学長、当時)が「子宮頸がんワクチンを打ったマウスだけ、脳の障害・記憶の中枢に異常な抗体が沈着。海馬の機能を障害していそうだ」と発表。世界で初のHPVV薬害証明!なぜ論文にしないのか

○7月27日、**全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会が国と製薬会社を提訴(世界初の国賠訴訟)**

○6月20日、村中璃子氏は、池田修一氏の研究発表に捏造ありとの記事を月刊「ウェッジ」に寄稿

N=1、脳切片はワクチンを接種していないマウスのものだった

○8月4日、**池田氏がウェッジ・編集長・村中氏を名誉棄損で提訴**

○11月15日、**信州大学調査委員会**:不正ではないが予備研究を本研究のように発表したことに猛省、発表の修正と再実験を求める

未だに、修正、再現実験の報告なし。STAP細胞事件と類似

○11月24日、**厚労省見解**:「ワクチンへの誤解を広げた池田氏の責任は重く、大変遺憾」

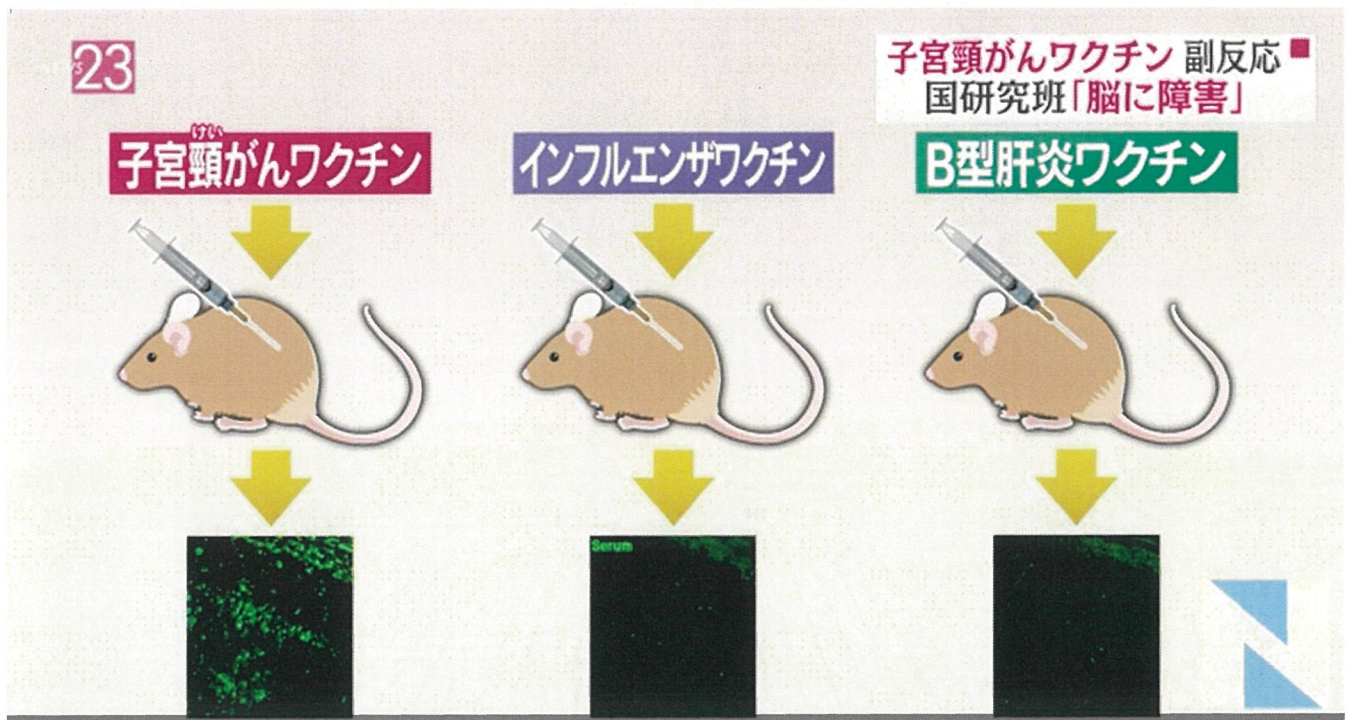
13

TBS「ニュース23」と厚労省の成果発表会

子宮頸がんワクチンを打ったマウスだけに脳に異常な抗体が沈着して、海馬の機能を障害していそうだ」「明らかに脳に障害が起こっている。ワクチンを打った後、こういう脳障害を訴えている患者の共通した客観的所見が提示できている

HPVワクチンが原因であるとするには、以下の根拠が必要、しかし、提示されていない。

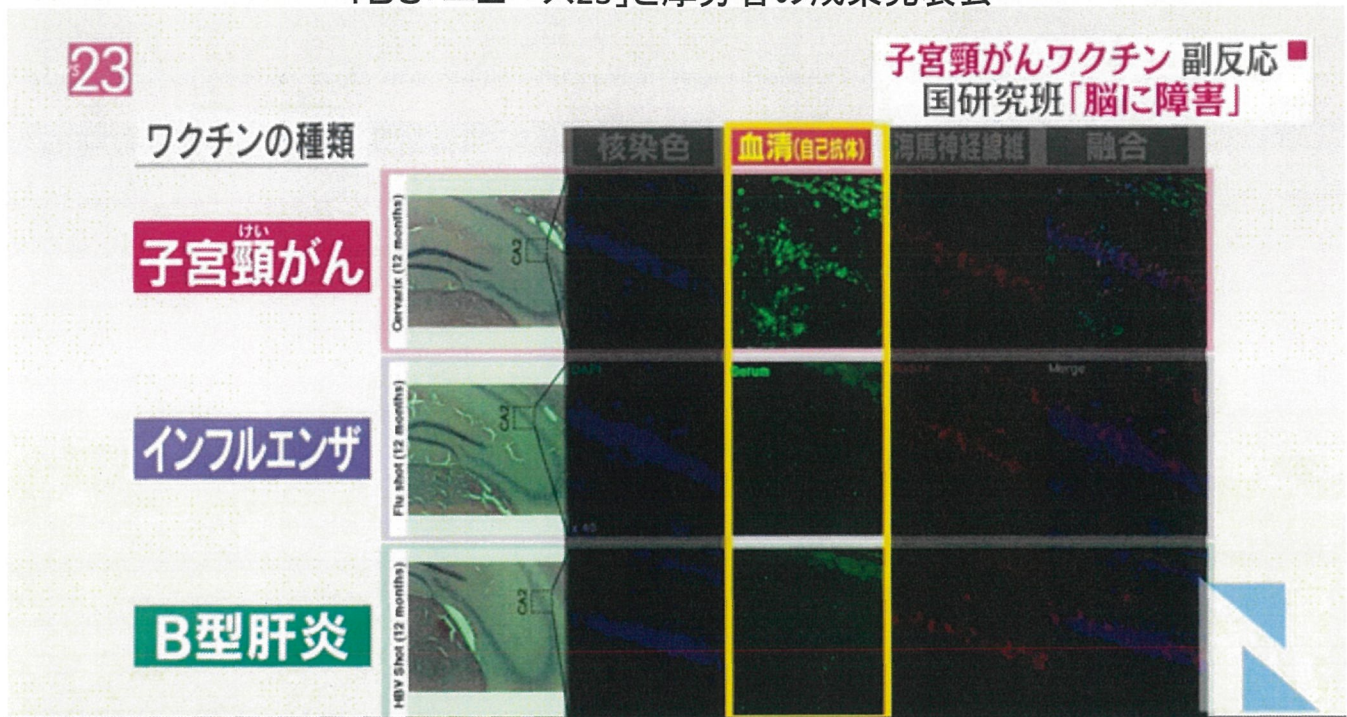
1. HPVワクチンをNF-κBp50 欠損(ノックアウト)マウスに接種することで自己抗体が産生されること。
2. 産生された自己抗体が血液脳関門を通過すること。
3. この自己抗体が海馬などに沈着すること。
4. 沈着した自己抗体により神経組織に障害が起きること。



しかし、

- ① マウスは1匹しか用いてない
- ② 実験に用いたマウスの脳は病理検査をしていない。

1.5



- ① HPVワクチンをNF-κBp50 欠損(ノックアウト)マウス1匹(N=1)のみで実験
- ② 実際には説明に使われた脳組織は、接種されたマウスとは全く別のマウス。
- ③ 自己抗体を含むかもしれないとする血清を別マウスの脳組織に振りかけただけで、血液脳関門を通過する(海馬などの脳組織に自己抗体が到達できる)ことを示すデータではない。このようにHPVVが脳に障害をもたらしたとの根拠は何ら証明されていない。

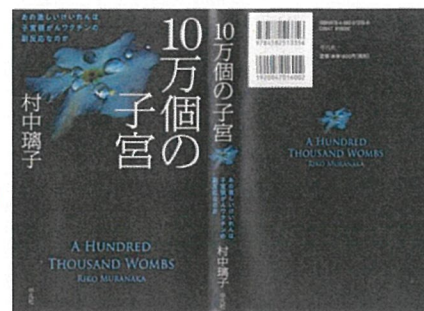
HPVワクチン訴訟-3

○村中氏:科学誌「ネイチャー」より、
ジョン・マドックス賞受賞(平成29年11月30日)

「10万個の子宮」

約100名の候補の中で受賞、日本人初

世界が注目。なぜか日本の新聞・テレビは報道せず



○一審:被告全面敗訴(平成31年3月26日) ウエッジ・編集長は判決を受け入れ、控訴せず。損害賠償と謝罪文を掲載

○村中氏のみ控訴(4月8日) 公益性・公共性・真実性(相当性)あり

弁護団:平岩敬一先生、喜田村洋一先生、水谷 渉先生他

○控訴理由書

○第1回口頭弁論

17



ノーベル賞授賞レクチャー後、2018年12月

池田氏の発表

“子宮頸がんワクチンを打ったマウスだけ、脳の障害・記憶の中枢に異常な抗体が沈着”
実は起きていないこと、世界のどこでも証明されてきていないことをマスコミと厚労省で発表。学会や論文での反論はなく、訴訟を提起

本庶佑氏、ストックホルムでも子宮頸がんワクチン問題に警鐘

「マスコミはきちんとした報道をしていただきたい」

m3、2018年12月11日 配信、村中璃子

「子宮頸がんワクチンの副作用というのは一切証明されていない。日本でもいろいろな調査をやっているが、因果関係があるという結果は全く得られていない。厚労省からの(積極的接種)勧奨から外されて以来、接種率は70%から1%以下になった。世界で日本だけ若い女性の子宮頸がんの罹患率が増えている。1人の女性の人生を考えた場合、これは大変大きな問題だ。マスコミはワクチンによる被害を強く信じる一部の人たちの科学的根拠のない主張ばかりを報じてきた」と続けた。

医学や科学の問題について論じる際にマスコミ関係者に注意して欲しい点として、「科学では『ない』ということは証明できない。これは文系の人でも覚えておいてほしいが、科学では『ある』ものが証明できないことはない。『証明できない』ということは、科学的に見れば、子宮頸がんワクチンが危険だとは言えないという意味だ」と述べ、「なぜこれを報道しないのか」¹⁸

子宮頸がんワクチン、積極的接種勧奨 差し控えから6年 積極的接種勧奨再開に関する要望 日本産婦人科医会

世界が子宮頸がん撲滅に向けて動いている中、定期接種でありながら、日本人女性だけがワクチン接種の通知を受けずに、命と健康を守る権利を失い続ける合理的な理由は見当たりません。

日本産婦人科医会は、国民に向けて引き続き子宮頸がんワクチンに関する正しい理解を促す活動を続けていくとともに、国が積極的接種勧奨を再開し、実施主体である市区町村が接種の通知を出すことを要望します。

19